

スコットランドラグビー協会、市民友好都市アバディーン市公式訪問団報告書

| | | |
|---------|----|----|
| 長崎市議会議員 | 浅田 | 五郎 |
| 長崎市議会議員 | 五輪 | 清隆 |
| 長崎市議会議員 | 井上 | 重久 |
| 長崎市議会議員 | 筒井 | 正興 |
| 長崎市議会議員 | 野口 | 達也 |
| 長崎市議会議員 | 向山 | 宗子 |
| 長崎市議会議員 | 吉原 | 孝 |

訪問の目的

ラグビーワールドカップ 2019 において、長崎市で事前キャンプを予定しているスコットランドラグビー協会と、事前キャンプに係る調印式を本拠地であるエディンバラ市で実施するとともに、長崎市の市民友好都市であるアバディーン市への訪問を通じて、さらなる関係強化と交流促進につなげるもの。以下、その概要についてご報告いたします。

訪問期間 平成 28 年 8 月 20 日（土）～8 月 26 日（金）（5 泊 7 日）

訪問都市 英国・スコットランド アバディーン市、エディンバラ市

訪問団構成 長崎市公式訪問団 12 名（田上市長、毎熊議長、市議会議員 7 名、市民生活部長、議会事務局 1 名、国際課（通訳） 1 名）
長崎日英協会 5 名
長崎県ラグビーフットボール協会 U15 選抜チーム 24 名、引率者 4 名（長崎県ラグビーフットボール協会 3 名、スポーツ振興課長）、通訳 1 名（香川氏）

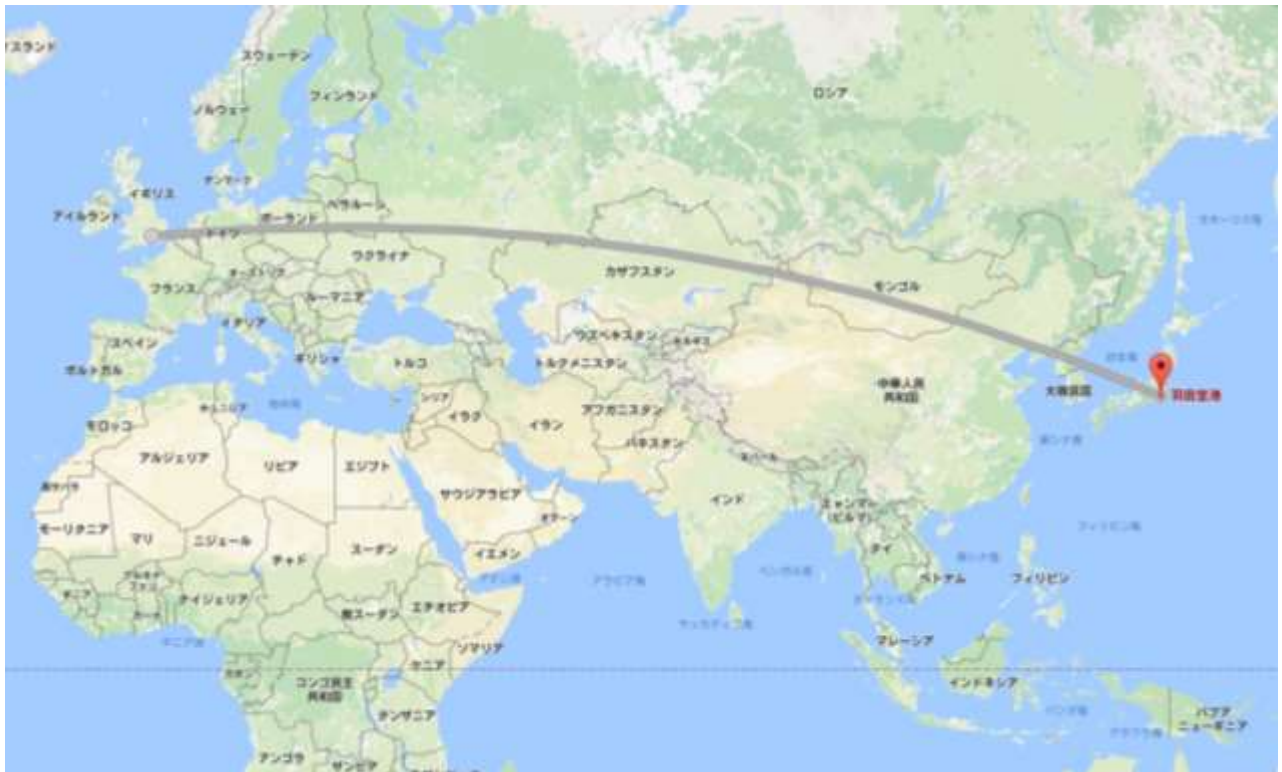
訪問都市における行事・視察地等

- (1) アバディーン市長表敬訪問
- (2) 水素ステーション視察
- (3) グラバーハウス視察
- (4) 海洋博物館視察
- (5) アバディーン市長、アバディーン市議会代表者との昼食会
- (6) グレンギリー蒸留所視察
- (7) ラグビーアカデミー視察
- (8) アバディーン市長主催夕食会
- (9) スコットランドラグビー協会による歓迎レセプション
- (10) ラグビー交流試合観戦
- (11) 在エディンバラ日本国総領事主催レセプション
- (12) エディンバラ・ミリタリー・タトゥー視察
- (13) 事前キャンプ調印式
- (14) マレーフィールドスタジアム視察、エディンバラチームトレーニング見学
- (15) エディンバラ城視察
- (16) スコットランドラグビー協会主催レセプション

日 程

| 月日 | 現地時間 | スケジュール<宿泊地> | 用務地等 | 日本時間 |
|-------------|-------------|---|-----------------------|--------------|
| 8/20 (土) | 14:30 集合 | 長崎市役所～長崎空港（議会バス）⇒ 長崎空港集合 | 長 崎 東 京 | |
| | 16:50～18:40 | 長崎空港発（JL614）⇒羽田空港着 ⇒ ホテル着 | | |
| 8/21 (日) | 9:00 集合 | ホテルロビー集合 ⇒ 羽田空港国際線（出航準備） | 東 京 ロンドン アバディーン | |
| | 11:20～15:50 | 羽田空港発（JL043）⇒ ヒースロー空港着 | | 23:50 着 |
| | 18:05～19:40 | ヒースロー空港発（BA1316）⇒アバディーン空港着 | | 翌 2:05～3:40 |
| | 20:20～21:00 | アバディーン空港⇒アバディーン市内（専用車） ⇒ホテル着 | | 翌 4:20～5:00 |
| 8/22 (月) | 9:00～9:45 | アバディーン市長表敬訪問 【会場】セント・ニコラス・ルーム | アバディーン インヴァーリー | 17:00～17:45 |
| | 10:00～10:45 | 水素ステーション視察 【会場】キティーブルスター | | 18:00～18:45 |
| | 11:00～11:30 | グラバーハウス視察 【会場】ブリッジ・オブ・ドン | | 19:00～19:30 |
| | 11:45～12:15 | 海洋博物館視察 【会場】シップロー | | 19:45～20:15 |
| | 12:30～13:45 | アバディーン市長、アバディーン市議会代表者との昼食会 【会場】ビーチ・ボールルーム | | 20:30～21:45 |
| | 14:30～16:00 | グレンギリー蒸留所視察 【会場】インヴァーリー | | 22:30～24:00 |
| | 17:00～18:00 | ラグビーアカデミー視察 【会場】アバディーン大学 | | 翌 1:00～2:00 |
| | 19:30～22:00 | アバディーン市長主催夕食会 【会場】市庁舎（タウン・アンド・カウンティホール） | | 翌 3:30～6:00 |
| 8/23 (火) | 8:30～13:00 | アバディーン発～エディンバラ着（専用車） | アバディーン エディンバラ | 16:30～21:00 |
| | 13:00～14:15 | SRU による歓迎レセプション 【会場】The Glasshouse | | 21:00～22:15 |
| | 15:00～16:30 | ラグビー交流試合観戦 【会場】George Watson's College Rugby Stadium | | 23:00～翌 0:30 |
| | 17:00～19:00 | 総領事主催レセプション 【会場】在エディンバラ日本国総領事館 | | 翌 1:00～3:00 |
| | 21:00～22:00 | エディンバラ・ミタラー・タトゥー視察 【会場】エディンバラ城 | | 翌 5:00～6:00 |
| 8/24 (水) | 9:30～10:00 | マレーフィールドにて出迎え 【会場】President Suite | エディンバラ | 17:30～18:00 |
| | 10:00～11:00 | 調印式セレモニー 【会場】ピッチサイド | | 18:00～19:00 |
| | 11:00～12:30 | スタジアム視察、エディンバラチームトレーニング見学 | | 19:00～20:30 |
| | 15:00～17:00 | エディンバラ城視察 | | 23:00～翌 1:00 |
| | 19:00～21:30 | SRU 主催レセプション 【会場】The Glasshouse | | 翌 3:00～5:30 |
| 8/25 (木) | 10:00 発 | ホテル発（専用車） ⇒ エディンバラ空港着 | エディンバラ ロンドン | 18:00 |
| | 13:45～15:15 | エディンバラ空港発（BA1445）⇒ ヒースロー空港着 | | 21:45～23:15 |
| | 19:15 発 | ヒースロー空港発（JL044）⇒ | | 翌 3:15 |
| 8/26 (金) | 15:00 着 | ⇒ 羽田空港着 | 東 京 長 崎 | |
| | 17:40～19:40 | 羽田空港発（JL613） ⇒長崎空港着 ⇒ 長崎市役所（議会バス） 20:30 頃 | | |

【羽田空港→（ロンドン）ヒースロー空港】



【ヒースロー空港→アバディーン空港…エディンバラ空港→ヒースロー空港】



1 アバディーン市の概要

日本の近代化に多大な貢献をしたトーマス・グラバー氏が幼少期を過ごしたスコットランド北東部の港町。

イギリスで4番目に古いアバディーン大学を有するなど、古い歴史を持つこの街は、花崗岩の産地でもある。

街中には重厚な石造りの建物が立ち並び、「花崗岩の街」とも呼ばれている。北海油田が発掘されて以来、資材、食料などの補給基地として街の経済は発展してきた。御影石で作られた荘厳な建物が並ぶ。市域面積 186 km²、人口は約 22 万人。

スコットランドは北海道より北に位置し、夏は日本よりかなり涼しい。雨が多く、1日のうちでも、めまぐるしく気温の変化がある。



2 市民友好都市提携の経緯

長崎市とアバディーン市は、日本の近代化に多大な貢献をしたトーマス・グラバー氏との歴史的なつながりがあり、両市のロータリークラブが1996年（平成8年）からトーマス・B・グラバー奨学生の相互派遣を行うなど市民が主体となった実質的な交流が行われていることから、長崎市から提案し提携を行った。

市民友好都市は2010（平成22）年7月12日に提携。

3 アバディーン市での主な行事内容

(1) アバディーン市長表敬（8月22日）

アバディーン市庁舎において、ジョージ・アダム市長を表敬訪問した。ジェニー・レイン議長や長崎市を3年続けて訪問しているヤサ・ラトナイエケ上級職員（水素バスプロジェクト等担当）も同席した。両市長が挨拶して記念品を交換し、田上市長から瑠璃庵の長崎チロリを、毎熊議長から現川焼（コーヒーカップ）を贈呈し、アダム市長からもアバディーン市庁舎の木製模型などの記念品が贈られた。

その後、アバディーン市訪問にあたり、両市の市民の友好が深まることを記念するメッセージを添えて田上市長、毎熊議長が記帳した。



(2) 水素ステーション視察（8月22日）

アバディーン市は、将来を見据え、再生可能エネルギーの実用化に向けて取り組んでおり、その取り組みのひとつである水素エネルギー関連施設を視察した。また、アバディーン市庁舎から視察先までの移動に、通常はバス会社に貸与して運行している水素バスに試乗し、その乗り心地の良さを体感した。

キティブルースター水素燃料補給所は、市街地内にあり、想像していたよりコンパクトな施設であった。担当者に3台ある電気分解装置の内部などの詳しい説明を受け、水素生成量や水素バスの経費などについて活発な質疑応答が行われた。



(3) グラバーハウス視察（8月22日）

保全のための工事が行われているため、庭と外観のみの見学となった。グラバーの両親などが20年余りにわたって生活した家で、グラバー自身は日本に拠点を築いていたため生活はしなかったが、日本からの留学生とともに何度か訪れていると言われている。グラバーハウス入口の門柱にはアバディーンでグラバーの代名詞となっ



ている「THE SCOTTISH SAMURAI」と表示されていた。視察を現地メディアが熱心に取材し、当日にスコットランド全土でテレビ放映された。



(4) 海洋博物館視察（8月22日）

港を望む場所に位置し、EU最大の原油の生産・輸出を誇るイギリスが採掘を行っている北海油田の海底プラントの巨大な模型や、トーマス・グラバーがアバディーンで造り、長崎に運ばれた船「常勝丸」の模型や図面等が展示されていた。館内の一部には、グラバーや日本に関連する展示が行われていた。



(5) アバディーン市長、アバディーン市議会代表者との昼食会（8月22日）

アダム市長、アバディーン市議会議員3名、スコットランド議員1名の出席のもとで、昼食会が行われた。議長から、出席された議員4名に長崎の名所等をあしらった手ぬぐいを贈呈した。訪問団全員に、アバディーン市のタータンチェックのマフラーなどが贈られた。



(6) グレンギリー蒸留所視察（8月22日）

1797年創業のスコットランドで最も古い蒸留所のひとつ。蒸留所に向かうバスの車窓からは大麦畑が広がっており、かつてアバディーン州の穀物庫と言われていたことから、原料となる大麦が豊富に採れることがウイスキーづくりに密接な関係があるとあらためて感じた。アダム市長も同行され、蒸留所係員の案内により、作業工程と同じ流れで蒸留所施設内を視察した。操業停止となった時期もあり、2014年には財務上の理由からビームス社とサントリーが提携した。年間50万リットルを製造し、スコットランドで一番生産量が少ない蒸留所であるとのことであった。



(7) ラグビーアカデミー視察（8月22日）

アバディーン大学を訪問し、14歳以上の男女の指導を目的とするラグビーアカデミーを訪問し、プロ候補生のトレーニングの様子と施設を視察した。怪我からの復帰のためのプログラムの様子を見学したが、怪我の程度に応じて専門のスタッフによる指導や治療が行われており、若い年代から個々の選手に応じた充実した育成が行われていた。



(8) アバディーン市長主催夕食会（8月22日）

アバディーン市長主催の夕食会のため、再度アバディーン市庁舎を訪問した。会場となった市庁舎内の特別広間である「タウン・アンド・カウンティホール」は歴史の重みを感じる場所で、アバディーン市のロバート・ゴードン大学に留学している日本人の学生や日本企業でイギリスに勤めている方など 100 名を超える方々が集まり、大歓迎を受けた。アバディーン市訪問は、さらなる友好交流が深まるとともに、これを機会に経済分野での交流など未来に向けた関係構築に向けて有意義な訪問となった。



4 エディンバラ市の概要

イギリス連合王国の一員になるまでのスコットランドの首都。高台にはスコットランドを象徴するエディンバラ城がそびえ、石畳の道や石造りの建物など、中世のエディンバラそのままの街並みも残っている。歴史的な建物が集まっているオールドタウンと、18世紀以降に計画的に造られたニュータウンが見事な対比を見せ、ユネスコの世界遺産にも登録されている街。市域面積 264 km²、人口は約 48 万人。

5 エディンバラ市での主な行事内容

(9) SUR（スコットランドラグビー協会）による歓迎レセプション（8月23日）

アバディーン市からバスでエディンバラ市に移動し、宿泊先となったホテルで、スコットランドラグビー協会からバグパイプ演奏とレッドカーペットで迎えられ、マーク・ドットソンCEOから歓迎の言葉をいただいた。



(10) ラグビー交流試合観戦（8月23日）

「子どもラグビー国際交流事業」として派遣した長崎市の中学生 15 人を含むジュニア・ラグビー長崎県選抜とU15エディンバラ代表チームとの交流試合を観戦した。試合前には毎熊議長から長崎県選抜の選手に向けて「この試合で一つでいいから、気持ちのこもったタックルを」と激励のことばが贈られた。試合当初は長崎県選抜が先制トライを決めるなど先行したが、徐々に体格に勝るエディンバラ代表チームが盛り返し惜敗した。今回の交流事業は、参加した中学生の自信につながるとともに、今後に向けた貴重な経験となったことと思う。



(11) 在エディンバラ日本国総領事主催レセプション（8月23日）

在エディンバラ日本国総領事館で松永大介総領事を訪問した。レセプションでは、ご厚意により一部日本食も準備していただいた。

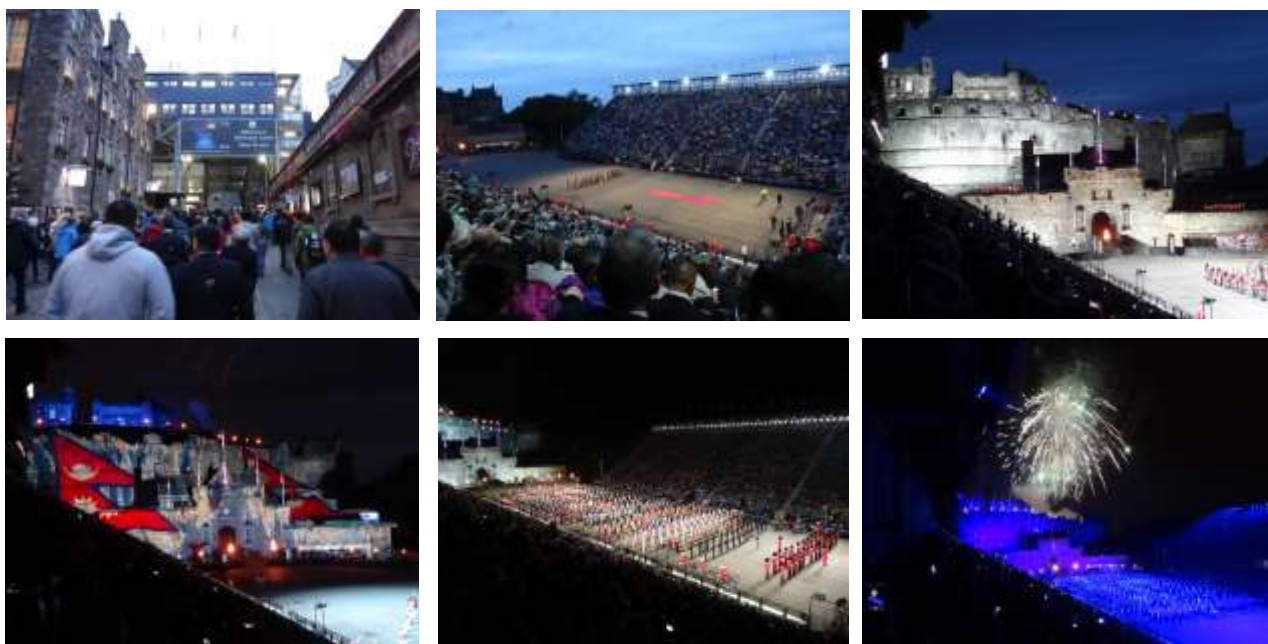
昨年7月に長崎を訪問いただいたフィオナ・ヒスロップ大臣と再び面会することができた。

長崎市議会から総領事とヒスロップ大臣に古賀人形を贈呈し、今後のスコットランドと長崎のさらなる交流に向けて意見交換した。



(12) エディンバラ・ミリタリー・タトゥー視察（8月23日）

1950年から65年もの間、エディンバラ城で毎年開催されており、スコットランド伝統のキルトを着た軍楽隊によるバグパイプパフォーマンスのほか、他国の軍楽隊も参加する。毎年20万人以上の観光客が世界各国から訪れる。スコットランドラグビー協会のご厚意により視察することができた。プロジェクションマッピングなどを駆使した光と音楽の壮大な演出の迫力は圧巻であった。



(13) 事前キャンプ調印式（8月24日）

(14) マレーフィールドスタジアム視察、エディンバラチームトレーニング見学

収容人員 67,800 人のスコットランド最大のラグビーの聖地とも言えるスタジアム。1925年に開場以後、大規模改修などを経て、スコットランドラグビー協会が所有する。

フィールド内に設けられた調印式会場で、スコットランドナショナルチームの2019年ラグビーワールドカップ開幕前の10日間の「事前キャンプ」を長崎市で行うことの正式合意書にサインした。今後の長崎のラグビー振興のための活動、市民レベルでの協力、スコットランドラグビー協会と長崎市の協力促進及び相互支援促進について確認した。

調印式後には、エディンバラチームのトレーニングを見学するとともに、歴代選手の名前が刻まれたロッカールームなどマレーフィールドスタジアム内を歴史と伝統を感じながら視察することができた。ジュニア・ラグビー長崎県選抜の選手たちが感激し、喜んだ表情が印象的だった。





(15) エディンバラ城視察（8月24日）

エディンバラの中心街を見下ろす高台に建つ城で、岩山はキャッスル・ロックといわれ、天然の要塞として幾度の戦闘を経験した。城内の王宮、グレートホール、戦没者祈念館などを視察した。城からはエディンバラ市街地を一望でき、多くの観光客で賑わっていた。



(16) SUR (スコットランドラグビー協会) 主催レセプション (8月24日)

宿泊ホテル内でSUR主催レセプションが開催された。毎熊議長からマーク・ドットソンCEOをはじめスコットランドラグビー協会に古賀人形と長崎の名所などをあしらった風呂敷を贈呈した。レセプションの最後には、スコットランド民謡である「オールド・ラング・サイン」(日本の「蛍の光」の原曲)を全員が輪になって合唱するほど盛況を呈し、驚くほどの歓待を受けた。

約160年前にトーマス・グラバーから始まった長崎とスコットランドとの交流は、スコットランドラグビー協会の2019年ラグビーワールドカップの「事前キャンプ」実施をきっかけとして、これから、未来に向けた関係となったことを感じ、今後、さらに経済面などの多分野での交流により、さらなる発展を強く期待させる締めくくりとなった。

また、スコットランドラグビー協会がデザインした、長崎市オリジナルのタータンチェックをプレゼントされた。タータンチェックはスコットランドでは、日本の家紋のようなもので、「長崎タータン」として登録することで、世界に一つだけの「長崎タータン」を様々な場面で活用できるとの提案をいただいた。

今回の訪問の目的のひとつであった、事前キャンプの調印式を滞りなく終え、交流を深めることができ、スコットランドラグビー協会と長崎市のより強い関係を築くことができたこと強く感じた。

市民友好都市であるアバディーン市訪問と併せて、長崎とスコットランドのさらなる関係強化と交流促進につながる大変有意義な、実りある訪問であった。



(エディンバラ市の街並み)

※出発式は長崎空港特別待合室、解散式は長崎空港到着ロビーでそれぞれ行った。